

アメリカ滞在記⑬

カナディアンロッキーとタコマ富士

霧野萬地郎

▼1981年にロッキー山脈のカナダ側を夏休みを利用して家族で訪ねた。米国からカナダにかけて延びるロッキー山脈。カナダではアルバータ州（バンフ、ジャスパー）、ブリティッシュコロンビア州、ユーコン準州を抜ける。北米大陸の分水嶺となる箇所がいくつもある。この旅程にはいくつもの国立自然公園群があり、その雄大なカナディアンロッキー山脈を走り抜け雄大、且つ、山紫水明な夏の景観を楽しめた。

カナディアンロッキーの入口のアルバータ州カルガリー空港でレンタカーを調達した。カルガリーの標高は1000m。涼しく過ごし易い。約2時間のドライブでバンフ国立公園内の標高1900m程の小さな町レイク・ルイズに到着した。宿はその氷河湖のモーレン湖畔に予約しておいた。氷河によって削り取られた山の土砂が湖水と混ざり、夏には鮮やかなターコイズブルーとなる

美しい湖で、その湖面には雄大な山容が映っている。湖畔の遊歩道を家族で散歩しながら、雪渓を残す山々に囲まれた大自然と澄んだ空気を大いに満喫した。

翌日は針葉樹林を切り開いた舗装路を北上する。展望所では車を止め、山々を見上げ、



モーレン湖畔にて

時には谷底を覗き込む。やがて、大氷原に到着。コロンビア大氷原から流れ出す氷河の一つで、ジャスパー国立公園とバンフ国立公園

の境にあり「コロンビア大氷原の足の指先」とも呼ばれるらしい。温暖化で少しずつ後退しているが、その長さは約6kmで、氷の厚さは厚いところでは約300mもあった。ここでは、特別仕様の雪上車に乗り換えて氷河の

上を走り、時には下車して氷河の上で遊び、  
愉快的な危なっかしい冒険も体験できた。



大氷原の雪上車

大氷原から更に北上し、この広大な自然公園の中心地のジャスパーに到着した。この日の走行距離は約300km、夏は日没が遅いので運転する距離が稼げて何よりだ。軽井沢の様な町で、土産物屋や小さなスノーパーなどが散在している。日本の有名タレントKさん所有の小さな土産物屋もあった。

翌朝は町をゆっくりと散策したり、近隣の小さな湖へ車で行ったりした。野生のリスや大きな角を持つエルクなどを見ながらこのジャスパーでの二泊を有効利用した。

翌々はアルバータ州からブリティッシュユ・コロンビア州に入り、一気にバンクーバ

ーまでロッキー山脈を縫うように下る。途中で小さな宿で一泊、更にコロンビア川に沿い、時にはカナダ大陸横断鉄道と並走しながら、カナダ第三の都市バンクーバーに到着した。翌朝は市内のトーテムポールのある公園などを訪ね、そして、昼には空港で車を返してNJへの直行便に乗り込み旅を終えた。

### 空近くしてロッキーの水澄めり

### 雪渓を子らの歩きのおぼつか

### ロッキーの谷間へ鹿の声の抜け

▼仕事の関係で、シアトルとその傍の都市タコマへは何度か行くことがあった。多くの日本発の船荷はタコマ港で陸揚げされ全米へ配送されていた。その荷揚げ状況を時には調べたり、手続きを急がすお願いなどの為に港湾事務所や船会社を何度か訪ねた。

シアトル空港から車で5号線を北側へ30分ほど走るとボーイングの巨大な工場がある。道路から見えた大きな格納庫や滑走路。

テスト飛行の離着陸する新ジャンボ機を眺め、アメリカの力を見た思いがした。何時かはこの工場内部を見学したいと思っていたが、チャンスは無かった。

今にして思えば、シアトル空港内には屋台の様な珈琲店があり、それがスターバックスの初期の営業であった。何度かのタコマへの出張



左から Mt レーニア、Mt アダムス、噴火前の Mt ヘレンズ

中、機窓からは美しいタコマ三山が眺められた。その中でアメリカ富士とも称されたMt. ヘレンズが1980年3月の大噴火で山容が一変してしまった。山の標高は三千m近くから500mも減少した。この山体崩壊の瞬間の様子は数多くの写真や動画などに収められており、爆発型噴火の典型例として語られる。崩壊した土砂は火砕流となり、200軒の建物と47本の橋を消失させ、57人の命を奪った。また鉄道は24km、高速道路は30kmにわたって破壊されたと記録に残っている。

(写真は大爆発前に機窓から撮った2枚の写真を繋ぎ合わせた)

今はタコマ富士として残ったMtレーニアがシアトル市内から眺められるが、消えたMtヘレンズは景観的に大きな損失だ。

### 穏やかにタコマ三山秋澄めり

### ジャンボ機の試験飛行や夏の空

### 春愁や富士の噴火をふと思う

続く